

養成医かわら版

NEWSLETTER



自己紹介

名前: 芦崎理沙

勤務先: 西脇市立西脇病院 内科

経歴:

2018 年 鳥取大学卒業

2018-20 年 公立豊岡病院 初期臨床研修

2020-22 年 公立宍粟総合病院 内科

2022-23 年 公立八鹿病院 内科

2023-25 年 神戸大学医学部附属病院 消化器内科

2025 年- 現職



【西脇市について】

西脇市は兵庫県のほぼ中央、東経135度、北緯35度が交差する『日本列島の中心・日本のへそ』として知られており、古くから「播州織」や「播州釣針」の産地として栄えてきました。今年は大阪・関西万博が開催されていますが、西脇で「ばんぱく」といえば播州織産地博覧会の「播博(ばんぱく)」が有名で、人口約4万人のまちに1万人以上の人を訪れ賑わうそうです。神戸ビーフの素となる「黒田庄和牛」や酒造好適米の代表である「山田錦」の産地でもあり、市内には加古川をはじめとする複数の河川が流れる自然豊かな町です。



【西脇病院について】

西脇市立西脇病院は、北播磨地域北部の拠点病院として、西脇市にとどまらず周辺地域の医療も担っています。内科では、各医師が専門性を活かしつつ、高齢の方に多く見られる複数の疾患に対して、総合的な視点から診療を行っています。特に、高齢者の入院では、せん妄や廃用症候群、ポリファーマシーなど、さまざまな問題が生じやすく、こうした課題に対応するため、2024年4月に老年内科が新設され、現在は臓器別診療科と連携しながら高齢者の診療を支えています。また、地域の医師会とも密接に協力しており、毎年春には医師会と西脇市・多可町の医師が一同に会する歓迎会が開催されたり、院内に休日急患センターを設置し開業医の先生方が交代で一次救急診療を行うなど、病院単体ではなく、地域全体が連携して医療の課題に取り組む姿勢も当院の大きな魅力です。

【地域医療の魅力】

私の出身は兵庫県養父市で、地域医療は昔から身近な存在として認識していましたが、実際に医療を提供する立場になって初めて見えてくる現実や課題も多くあることを実感しました。特に、地元に戻って働き始めた際、患者さんやスタッフの方から温かく迎えていただいたことは、医師を志した原点を思い出す貴重な経験でした。一方で、一内科医として、まだまだ自分の知識や技術が未熟であることに葛藤する日々でもありました。

大学病院での研修では、最先端の専門的な医療に触れる機会を多くいただき、これまで地域医療の現場だけでは得られなかった知識や手技を数多く学びました。しかしその一方で、特定の領域に集中しすぎるあまり、患者さん全体を捉える視点が薄れてしまうこともあります。たとえば、ある患者さんが治療目的で入院中に、ふとした訴えからこれまで診断されていなかった疾患が判明し、その病気が治療の合併症リスクを高める可能性があったため、事前に予防的な対応ができたという経験がありました。こうした広い視点は、まさに地域医療の現場で、患者さん一人ひとりの全体像を見ながら診療してきた経験があったからこそ得られたものだと感じています。

地域医療では、一人の医師が複数の問題に向き合うことが求められ、生活背景や全身状態を踏まえた判断が欠かせません。大学病院での専門性の高い研修と、地域医療の現場での多面的な経験、そのどちらもが私にとって大切な学びとなりました。今後も視野を広く持ち、バランスの取れた診療を大切にしたいと考えています。

